

2018年度 活動報告案 (2018年4月1日~2019年3月31日)

■2018年度を振り返って

2018年度は第5期中期計画(2016年度~2018年度)の3年目の年でした。中期目標は次の3つです。

○目標(1)「ぐらす・かわさき」らしい、持続可能な地域の居場所・活動拠点をつくりあげる

食と農の地域交流拠点「メサ・グランデ」は開設から7年が経過しました。障がいがあってもなくても、皆が過ごせる居場所「地域活動支援センター」としても丸3年が経過しました。地域の商店会、八百屋やカフェのお客様に支えられながら、スタッフが試行錯誤を重ね、徐々にノウハウを蓄積し、協力しあって、運営の方向性を模索してきました。安定的に弁当を購入してくれる企業などもあり、徐々に運営も安定化しつつあります。「めさみーる+」のような地域食堂としての取り組みも、多くのボランティアに支えられて運営することができ、地域の居場所として定着してきました。

更なる人材強化と、メサ・グランデの強みの強化により、スタッフ一人一人が安心して生き生きと働ける職場にし、利用者のみなさんの達成感や満足感も充足できるよう、運営に注力していきます。

「遊友ひろば」は、登戸区画整理事業の進展を見据え、ボランティアによる運営委員会体制で事業が継続できました。地域に愛される場として2019年度も運営を続けながら、今後について、検討を続けます。

○目標(2) コミュニティビジネス支援のノウハウを拡充し、様々な中間支援組織との連携を推進する

川崎市ソーシャルビジネス振興事業の企画運営を関係各所と協力連携しながら行いました。2018年度で市の委託事業が終了し、これまでの経験を今後どのように生かしていけるか、検討が必要です。

○目標(3) 子育てしやすい社会に向け、子どもをめぐる地域の繋がりへの促進に寄与する

地域子育て支援センター「おおと」・「しんまるこ」は、地元のスタッフが中心に運営していただくことができましたが、今後はこれまで関わってきたメンバーによる別団体としてスピンアウトし、その団体が運営を担うことが決まりました。

川崎市教育委員会から受託している「柞形中学校 地域の寺子屋」事業も無事3年目の運営を終え、スタッフ体制が充実してきたため、そのメンバーによる別組織としての運営に移行します。

両事業において、ぐらす・かわさきは孵化器の役割を十分に担うことができました。

財政的には今年度は若干の黒字決算で終了することができました。

事業の継続のために、地域活動支援センター事業での加算金や助成金のリサーチを行い、獲得に向けての制度や環境の整備を進めました。今年度にはまだ加算や助成金は得られませんでした。引き続き可能な整備を進めます。次年度以降は事業がスリム化するので、事務局体制もスリム化しつつ、効率的に広報などにも力を入れていきたいと思っております。

◆2018年度の会員数

	正会員個人	正会員団体	賛助会員	合計
2017年度末	96名	8団体	17名	121名
2018年度末	90名	8団体	13名	111名

※個人会員の入会が1名、脱退が7名、団体会員の入会が1団体、脱退が1団体、賛助会員の脱退が4名、合計で2増12減となりました。

■2018 年度事業内容

(1) 市民活動を支援するための事業の企画・実施（定款第5条(1)）

収益：643,140 円(予算 0 円) 費用：459,820 円(予算 0 円)

①支援する活動の受託

(担当理事：田代)

「たちばな農のあるまちづくり推進会議」より、直売所マップ作りを受託しました。

②さまざまなグループへの参加と応援

(担当理事：江田)

○市民活動グループとのネットワークを拡げ、市民活動がより活発になるよう、参加し応援しました。

- ・「多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）」会員として参加（江田）
- ・「教育に憲法を生かす川崎市民の会」会員として参加（江田）
- ・「地域通貨たま運営委員会」事務局として参加（江田、大澤）
- ・「たちばな農のあるまちづくり推進会議」委員として参加（田代）
- ・「公益財団法人かわさき市民しきん」代表理事・理事として参加（広岡・江田）
- ・「NPO 法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加（田代）
- ・「NPO 法人はたらくらす」監事として参加（田代）

○次の団体に団体会員として登録し、主に広報協力、情報交換などを行いました。

「川崎 NPO 法人連絡会」、「NPO 法人フリースペースたまりば」、「NPO 法人ワーカーズコレクティブ協会」、「NPO 法人アクションポート横浜」、「NPO 法人まちづくり情報センター神奈川（アリスセンター）」、「NPO 法人たすけあい多摩」、「川崎商工会議所」、「登戸東通商店会」、「新城南口商店会」

○次の団体に賛助会員として登録し、協力しました。

「公益財団法人かわさき市民しきん」

○次の団体に協力団体として参加しました。

「福島の子どもたちとともに、川崎市民の会」

■成果/課題：ぐらす・かわさきの設立母体だった団体のつながりから続いている団体や、ぐらす・かわさきの活動から別組織化した団体、ぐらす・かわさきのミッションに合う活動グループへの参加（無償での参加）を通して、連携・ネットワークの強化を図りました。

(2) コミュニティビジネス（CB）を支援するための事業の企画・実施（定款第5条(2)）

収益：5,993,458 円(予算 6,196,120 円)・費用：5,993,458 円（予算 6,196,120 円）

①メサ・グランデ CB 事業

(担当理事：広岡、スタッフ：大澤)

メサ・グランデのスペースを土日祝を中心に有効活用し、開設時以来取り組んできたワンデイシェフ事業に関しては、継続の利用の方を中心に利用してもらい、新規の募集は行いませんでした。また、昨年度に引き続き、日本政策金融公庫との連携で、「café の学校 in かわさき」等を開催しました。

○コミュニティビジネス支援を目的とした主な利用実績

- ・ボードゲームカフェ（NPO 法人わくらボ主催） 45 回開催 参加者 366 名（延べ）
- ・チャリティレストラン（ワンワールド・ワンピープル協会主催） 9 回開催

- ・コミュニティビジネスに関する講座等への場の提供

「caféの学校 in かわさき」(日本政策金融公庫と共催)

6月16日・19日・7月7日・8日・10日の全5回(ワンデイシェフ実習2回含む)

参加者 13名

上記の講座に付随して、以下の講座を開催

・「飲食店のためのホームページ作成実践講座」 6月26日

・「コミュニティカフェ見学ツアーinかわさき」 6月19日

■**成果/課題**：ワンデイシェフは、新規の募集は行いませんでしたが、既存の方の継続利用や、新規の問い合わせもあり、必要とされていることが感じられました。また、定期利用されているボードゲームカフェやチャリティレストランなどは定着していますが、立ち合い人員の不足により今後も稼働日数が増やせません。人件費などの経費がカバーできないことが引き続き課題となっています。

②川崎市ソーシャルビジネス振興事業

(担当理事：竹林・田代 スタッフ：大澤・広岡)

ソーシャルビジネス(以下SB)に対する関心を高め、それらに就業・創業したい人や、すでにそれらの事業を行っている事業者への支援等を通して、市内でのSBの振興を図ることを目的とし、川崎市からの委託を受けて行いました。起業相談窓口業務のほか、SB起業のための8回の連続講座と事業者向けの3テーマ各2回のセミナーの企画運営を行いました。また、市主催の地域・社会貢献フォーラム「カワサキコネクト」でぐらす・かわさきの事例を紹介させていただくとともに会場の受付や懇親会のサポートを担いました。また、SB啓発のためにポータルサイト「つなぐっどKAWASAKI」の記事を11件作成しました。

川崎市内の起業・創業にかかる中間支援組織の連携会議に年度初めと終盤の2回参加し、つながりを持ちました。

○相談対応

- ・対応数：延べ29回(去年は50回)
- ・主な相談内容：起業15件、情報収集7件、継続発展9件、連携1件
- ・成果：就業0件、起業5件、法人化0件、継続発展1件

○連続講座「地域や社会に貢献できる起業セミナー」

- ・主講師：中小企業診断士 竹林晋氏
- ・期間：8月25日～10月13日の全8回 ・会場：川崎市産業振興会館12階会議室
- ・登録者：13名、参加者12名、特定創業支援事業対象1名

○事業者向けセミナー「円滑な事業運営に向けた コミュニティビジネスセミナー」

- ・テーマ1：ソーシャル時代の情報発信とPR(講師：杉浦正吾氏)
- ・テーマ2：事業運営に不可欠な人材確保と組織運営(講師：田畑浩氏)
- ・テーマ3：事業の基盤確立と発展のためのネットワーク構築(講師：為崎緑氏)

(協働企画：一般社団法人CAT)

- ・期間：11月10日～1月26日(各テーマ2回、合計6回)
- ・会場：川崎市産業振興会館12階会議室 ・参加者：36名

○地域・社会貢献フォーラム「カワサキコネクト」

事例紹介と運営補助(受付及び懇親会)

・日時：11月15日 ・会場：川崎商工会議所KCCIホール ・参加者：71名

○ポータルサイト「つなぐっどKAWASAKI」原稿作成

- ・事業者紹介 6件（株式会社 moka・ikuta まちぐるみ 株式会社インブルーム・一般社団法人カワサキノサキ・新川崎タウンカフェ・株式会社 NENGO・NPO 法人くるみ～来未～）
- ・イベントレポート 5件（地域や社会に貢献できる起業セミナー前編・同 後編・円滑な事業運営に向けたコミュニティビジネスセミナー テーマ1・同 テーマ2・同 テーマ3）

○川崎市創業支援者連携会議への参加

4月24日（火）会場：かわさき市民活動センター

3月26日（火）会場：K-NIC

■**成果/課題**：相談窓口により、何か始めたいと考えている方たちが気軽に相談できる場をつくり、必要に応じて専門的な相談にもつなげました。自分が感じた課題から、地域の課題解決をSBにつなげていくための、身近な相談の場としての支援を実施することが出来ました。

SB 起業連続講座は、短期間で成果が出るものではありませんが、モチベーションを持続してもらうために、ネットワークづくりに力を入れました。終了後すぐに起業する人は出ませんでした、今後の起業に向けて進んでいってほしいと思います。

事業者向けセミナーは土曜日午前の開催でしたが、充実した内容であったにもかかわらず参加者数が少なく、事業者の参加しやすい時間帯であったかどうか、ニーズに合っていたかどうかの検証が必要です。

ポータルサイト「つなぐっど KAWASAKI」への記事掲載では、一定程度の啓発の成果があったと思われれます。

川崎市から委託を受けて実施したSB振興事業は今年度で終了します。川崎市としては、ベンチャー発掘から成長支援までを目的とした、起業家支援拠点「Kawasaki-NEDO Innovation Center (K-NIC)」を2019年3月18日に開設し、SBの相談についてもそちらに一本化の予定です。

(3) 子育てを支援する場所の運営及び関連事業の企画・実施（定款第5条(3)）

①川崎市地域子育て支援センター「おおと」「しんまるこ」

（担当理事：広岡、スタッフ：本江・上村・堀・和田・桐生・須山）

収益：4,087,680円（予算4,087,680円）・費用：4,087,680円（予算4,087,680円）

川崎市の委託を受け、大戸こども文化センター及び新丸子こども文化センター内で、それぞれ週3日午前中、未就学児とその保護者向けのサロン事業を実施しました。地域に根ざしたサロン、当事者のお母さんたちが主体的な関わり方ができるようなサロンの運営を行いました。地域住民であるスタッフによる体制であることを活かし、中原区子育て支援会議、中原区総合子どもネットワーク会議等へも参加し、地域の子育て支援情報の収集と発信、連携を行いました。また、スタッフの研修を充実させ、スキルアップに努めました。

○おおと

実施日数：153日、利用人数：6,485人（大人3,059人、子ども3,426人）1日平均42人

○しんまるこ

実施日数：154日、利用人数：7,950人（大人3,918人、子ども4,032人）1日平均52人

■**成果/課題**：「おおと」は7年目、「しんまるこ」は2年目の実施となりました。それぞれの地域の特性に合わせて、利用者が安心して過ごせる環境づくりに努め、同じ悩みを持つ親子が交流し、地域

での暮らしの情報を共有する場づくりを行うことができました。利用者も増加しています。また利用者や地域の人たちが講師となるような講座も実施しました。地域との連携を図り、町内会・自治会や民生委員・児童委員など、地域の方々からの協力をいただくことができました。

2019年度からは、今の運営スタッフを中心に、NPO法人みどりなくらしとして運営し、ぐらす・かわさきの事業としては終了します。

②川崎市教育委員会「地域の寺子屋事業」(柘形中学校)

(担当理事：池上 スタッフ：池上・前川・池田・秋山・山田・中村・池水・三浦・溝呂木・古澤・田村・小沼・村田・菊谷・小林・神野・亀高・椎名)

収益：996,563円(予算997,000円)・費用：996,556円(予算997,000円)

○学び合い学習会(実技系教科も含め全教科対応。登録不要・参加費無料)：126回

・柘形中学校内(おもに3階多目的室。日によって理科室)22回

おもに部活動停止期間中(定期テスト3~5日前より)の放課後1~2時間程度

・児童館「すかいきっず」内(登戸2249-1KFJ多摩4階)104回

(おもに月・水・金18:30~20:30)

○体験活動・世代間交流(お楽しみ会)

様々な講師を招き、体験会を開催しました。

・テーブルゲーム(川崎テーブルゲーム会シャッフル6月15日)

・ソフトドッジボール(川崎ドッジボール連盟9月7日)

・ゴスペル&ビートボックス(多摩ラブフェロウシップ・ゴスペルクワイア、早稲田大学ビートボックスサークルWaseda Beatz12月4日)

・ダブルダッチ(日本大学ダブルダッチサークルD.S.P2月22日)では、登戸小学校の全校生徒にも案内を配布し、小学生が多数参加してくれました。

実施回数：定期テスト後に年4回、すかいきっずに開催。

■**成果/課題**：大学生スタッフは新しいメンバーも若干名入りましたが、テスト直前の放課後(15:00~17:00ごろ)に活動できる社会人スタッフが不足気味で、その獲得と育成が課題です。2019年度からは、今の運営スタッフを中心に、柘中寺子屋運営委員会として運営し、ぐらす・かわさきの事業としては終了します。

(4)障がい者を支援する事業の企画・実施(定款第5条(4))

地域活動支援センター メサ・グランデ事業

(担当理事：小林、伊丹 スタッフ：前田瑞穂・前田知花・富士井・和出・新堀・今田・神田・伊藤聡美)

収益：19,927,139円(うち補助金：11,672,238円、売上：7,985,252円、寄付：180,700円、その他：88,949円、予算20,700,000円)費用：19,927,139円(予算20,295,200円)

利用者が、その人らしい時間を過ごすことに加え、地域の方々の理解を得て、見守ってもらえる仕組みづくりに取り組んできました。社会性が醸成されるよう、カフェ内で開催される講座への参加、縁農への参加、「めさみーる+」への参加、地域イベントへの参加などの機会を積極的に設けました。八百屋の作業や弁当の配達など、利用者個人の得意分野を尊重して分担し、時間がかかってもそれ以上の喜びや達成感が得られることに着目し、関係づくりや運営方法を模索しました。また、ボードゲームを介して人間関係を構築したり、草木染などを手掛け始めたりと新しい試みを行いました。

カフェ運営は、お客様の過ごしやすい環境をつくるため、物品の整理整頓など清潔感のある空間づくりに力を入れました。また高評価をいただいているお料理が映えるよう盛り付けに工夫をこらしました。社員用弁当の配達は、週1回から週2回へと増やし、売り上げは増加しています。メサ・グランデの広報活動に積極的に取り組み、SNSや店内POPを活用、商店街主催イベントに参加して役割も担いました。

八百屋事業に関しては、仕入れと販売数とのバランスをとり、仕入れ量のコントロールと、仕入れ農家の変更を行いました。それに伴い費用額が大きく減少して野菜販売額が低下しておりますが、粗利額で判断すると大幅な変化に至っていません。

また、「めさみーる+」と称し、地域食堂を毎月1回第3木曜日に開催し、地域のボランティアなどの協力、寄付食材を得て、毎回50~70名ほどの参加者にカレーを提供する取り組みを継続しています。

・地域活動支援センター開所日数：239日　・利用者数：917人（延べ）

・めさみーる+実施日数：12日　・参加者数：764人（大人321人、子ども416人、シニア27人、平均64名）

■**成果/課題**：メサ・グランデはD型の地域活動支援センターですが、今年度の平均利用者数は4名となりました。利用者数は年間で大きく変動するので、利用者数を安定的に維持するため、継続的に情報発信できるようSNSなどを駆使し、関係各所と連携をとる必要があると考えます。

利用者の得意分野を尊重し、作業を分担したことで、率先して活躍する場面が増えていることから、その人らしい時間を過ごすことに貢献できていると言えます。新たに草木染など新たな取り組みは、今後、創造的な活動が、利用者の充実感や達成感にさらに寄与できると考えています。

カフェ事業に関しては、売り上げが昨年比97%と若干の減となりました。企業の社員向け弁当の配達では、高い顧客満足度を維持できている一方で、販売数が今一つ伸び悩んでいる側面もあるので、絶えず新規顧客開拓とリピーターの維持に努める必要があります。

八百屋事業については、原価率が高く、鮮度の求められる商品であるため、販売促進の工夫をする必要があります。

（5）市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施（定款第5条(5)）

①地域活動支援センター　メサ・グランデ事業／上記（4）の通り

②遊友ひろば事業

（担当理事：池上・町田）

収益：3,479,281円（うち補助金：417,094円、売上：740,600円、参加費収益：2,085,600円、寄付：128,000円、その他：107,987円）（予算3,720,000円）費用：3,549,302円（予算3,831,800円）

幅広い世代の住民の交流を促進し、周辺地域のコミュニティを活性化するため、ひろば運営に関心のある有志で運営委員会を設け、以下のような事業を行いました。

○地域住民等への活動場所の提供　担当ボランティア：池上・秋山・大澤

定期利用はやや減少傾向ですが、近隣の「たまファミリークリニック」の利用者を主な顧客とする「健康よろずカフェ」（主催：一般社団法人 やまなし 空と風）やパーティ利用など、新規利用も入ってきています。

- ・キッチン付き貸スペース…1時間1,200円（うち200円たままで使用可）。新規利用者が2時間以上利用する場合は初回1時間無料特典を実施。
- ・荷物保管用引出し等（1カ月500円）

- ・手紙の受け取り場所としてのレターボックス（1カ月 300円）
- ・壁面掲示・チラシラック等を活用した情報提供（地域の市民活動・行政等の情報）

○健康麻雀 担当ボランティア：瀬川・町田ほか

主に年配者が麻雀を通して地域の人と交流をし、自然に頭や指先を使うことで、心身の健康の促進を図るためのプログラムです。

- ・初級者サロン…火曜 13時～17時。1回 1200円（500円まで使用可）。和気あいあいと楽しく、いつも笑いが絶えません。「生きがい」と感じている方もいます。5卓の時も毎月1回以上あります。全く麻雀を知らなかった方が役を理解し、点数も数えられるようになりました。

・実施回数：50回 ・参加者延べ：793人（1回平均16人）

- ・健康麻雀サロン…金曜 10時～15時。1回 1500円（500円まで使用可）。病院通いや旅行など他の趣味とのバッティングが影響し、3卓が定着してしまいましたが、参加者の紹介で新しい方が4名ほど増えました。自分が参加している団体でひろばをレンタルし、麻雀を自主開催することで、ひろばを経済的にも支えようと協力して下さる方もいます。4卓に増やせるかが課題です。

・実施回数：47回 ・参加人数延べ：624人（平均13人）

○乳幼児親子向けサロン「親子ひろば」（不定期開催） 担当ボランティア：池上

モンテッソーリカフェ等の特色ある人気講座を軸とし、共働き家庭でも参加しやすい休日の開催などを検討する予定でしたが、力不足で実現できませんでした。今後、せめて年に1回でも開催したいと考えています。

○土井さんのオーガニック料理教室 担当ボランティア：町田・宮下

講師：土井由美子さん（ぐらす・かわさき会員）

季節料理、行事をとりいれつつ「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体）、暮らす土地の旬のものを食べる（身土不二）」を基本とし、体調に合わせた料理をつくるコツを学ぶプログラムです。20～60代と幅広い世代が参加しています。

一定の決まり通りに重ねて煮るだけの野菜の重ね煮など、簡単で美味しくできると好評でした。結婚、出産、仕事、引っ越しと生活スタイルに変化が生じ、参加が難しくなった方々がいる一方で、新しく参加する方もいました。

・利用料：1回 2,500円（100円まで使用可）

・実施回数：6回 ・参加人数延べ：35人（平均6名）

○放課後ひろば（食事付き寺子屋） 担当ボランティア：小野・川口・高崎・徳田・町田・江田

講師…地域のボランティア、調理…多摩区食生活改善推進員連絡協議会（ヘルスマイト）

小学生から中学生に学びの楽しさを伝え、学習できる居場所を提供するプログラムです。2016年から引き続き、川崎市地域子ども・子育て活動支援助成金を受けての軽食サービスは、毎回飽きないように配慮されたメニューです。ヘルスマイトさんが、食物アレルギーがある生徒用のメニューも工夫して用意して下さい、食事時間に淋しい思いをしなくて済むと、大変喜ばれました。食事時間は、学校の行事や先生の話、部活の話などで学校の様子もわかり、学年を超えた交流もできて楽しい時間となっています。高校に進んだ卒業生が体験を話しに来てくれました。新たに企画したお習字教室と英会話クッキングは、広報不足と先生方のご都合もあり、開催に至りませんでした。

・教科…算数・数学・英語 ・開催日：月曜日開催 ・利用料：1時間 500円

・実施回数：40日 ・参加者延べ：333人（平均8名）

■**成果/課題**：事業収益だけでは赤字でしたが、賃貸契約更新のために募った寄付や、放課後ひろばの助成金により、おかげさまで乗り切ることができました。運営スタッフは生業を抱えている者も多く、それぞれ少しずつ時間を割いて遊友ひろばの運営に携わっているため、マンパワー不足が最大の課題となっており、区画整理終了まで続けるためには新しい人材の獲得が不可欠です。

(6) 以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供（定款第5条(6)）

（担当理事：田代・薬袋 担当スタッフ：宮田・大澤）

収益：145,926円（予算230,000円）・費用：151,326円（予算230,000円）

① 広報

人員体制が厳しい中、ぐらすレターの発行を年3回とし、ホームページやフェイスブックページの活用を進めました。ぐらすレターの郵送分も、メール配信リストでの配信に少しずつ切り替えており、郵送費用の縮小を進めました。

② 講座開催・講師派遣

- ・市民エンパワメント研修「イベントプロデュース入門講座」（川崎市麻生区岡上分館）
7月7日・14日（土）（講師：田代）
- ・全国食支援活動協力会「食の居場所づくりを通じた多世代の健康づくり促進のための研修事業」
11月27日（火）NPO法人食と健康を学ぶ会（ヒアリング調査：田代）
11月28日（水）NPO法人アテラーノ旭（ヒアリング調査：田代）
12月11日（火）「食支援フォーラム」（北沢タウンホール）
（プログラム検討委員：田代、当日メサ・グランデ展示：大澤）
- ・「食支援フェスタ神奈川」（kosya33ホール）
2月3日（日）（企画委員：大澤、当日運営委員・メサ・グランデ紹介：前田・田代）
- ・かながわコミュニティカレッジ「地縁組織とNPO/大学等の協働を生み出すコーディネートのあり方を考える」（かながわ県民ホール）
2月6日（水）（企画・コーディネーター：田代）

③ 行政などに関わる委員会への参加

- 国分寺市協働事業審査会（田代）（5/15・10/9・11/13・2/12）
- 川崎市住宅政策審議会（田代）（11/12・3/19）
- 川崎市環境政策審議会（大澤）（7/20・2/13）
- かわさき市民公益活動助成金審査委員会（池上）（4/18・14・15・1/31・3/4）
- 多摩区子ども総合支援連携会議（町田）（11/28）

④ コミュニティカフェガイドブックの製作

販売数 62部 販売金額 40,540円

■**成果/課題**：会員向けのぐらすレターの郵送数はさらに縮小できると思われるので、会員に再度、メール配信リストでの配信への移行を進めていきます。行政などに関わる委員会への参加は、政策提言への直接的な場でもあるので、今後も積極的に参加していく必要があります。